

Frente

三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

vol.64
2016.2

大特集
Report!

企業も人も幸せになる、
これからのWork & Life Style

★男女共同参画フォーラム「みえの男女^{ひと}2015」
★女性の活躍推進三重県会議1周年記念大会

「仕事もプライベートも、

もっと欲張っていい！」

不定期連載インタビュー

フレンティが聞く！みえのひとびと
せいわの里 まめや 北川 静子さん

エッセイ 最終回

農 大輔さん
「暮らしにふれるメキシコの旅より」



特集

企業も人も幸せになる、これからの

Work & Life Style

平成27年11月15日(日)開催

今や女性の活躍は、国の成長戦略の中核として位置づけられ、女性の活躍なくして企業の成長はないと言っても過言ではありません。そんな中、今、企業に求められるものは何なのか。

今年は「男女共同参画フォーラム」と「女性の大活躍推進三重県会議1周年記念大会」が一緒になって、企業も人も幸せになれるこれからの「Work & Life Style」を提案しました。

男女共同参画フォーラム ～みえの男女2015～

講演会 「実践！イクボス式マネジメント～“時間”vs“成果”という新しい視点～」

[主催：三重県、フレンテみえ]

昨年度のフォーラムではイクボスの必要性を考えましたが、今年度は一歩進んで実際上司としてどうマネジメントしていくかを、労働時間削減と業績アップを同時に実現した「元祖イクボス」の川島高之さん(三井物産ロジスティクス・パートナーズ株式会社代表取締役社長、NPO法人ファザーリング・ジャパン理事)にお話をいただきました。



部下が育児や介護、趣味など、仕事以外のことも両立して、仕事の成果をあげるためには、社内制度をいくらそろえても、それを使える雰囲気がないと意味がありません。それよりも上司がしなければならない大切なことは、「オーダーメイドな指導と声掛け」「チーム(組織)力を高める」「ボス自身の覚悟」の3つです。

まず、部下一人ひとりへの「オーダーメイドな指導と声掛け」をすることにより、部下が成長し、上司はマネジメントに集中できます。それをするためには、部下を知る、部下が大切にしている生活を知ることです。部下が自分のことを話してくれる関係性を日頃からつくらなければなりません。部下の制約や状況が把握できてこそ、職場をマネジメントできます。

また部下に仕事を出すときは、部下にその仕事の内容を納得させてください。腑に落ちないようであれば、納得するまで話し合う。そして納得したら、細かい管理や指示はせずに部下に任せることです。過干渉になると、部下は育たないし、モチベーションもあがりません。

次に「チーム(組織)力を高める」こと。まず、そのためには「子育て」だけを特別視してはいけません。「子育て」と「それ以外の私生活」、どちらが重要ということはないと伝えて、理由はなんでもいいから、もっと私生活を、もっと休みをとろうという気持ちにさせることが、管理職・経営者として必要です。ワーク・ライフ・バランスが自分のことと考えられるようになると、「お互い様」の意識が醸成され、チームワークが向上し、私生活を犠牲にしないために生産性向上に向かうことになります。

最後に「ボス自身の覚悟」。上司の言動が部下の時間を奪っている可能性があること意識し、「自分でやる」覚悟を持たなければなりません。

同じく「やらないこと」を決める覚悟。大ボスや取引先に対して、Noと言ったり、部下に対してやらないことを決めてあげるのも、ボスの役割です。

そして「ヒマになる覚悟」。上司自身が「予定がない」という予定をつくることです。自分がじっくり考えるために、部下が相談しやすくするために、いざとなったときに部下の代打になるために、予定がない時間を確保しておかなければなりません。

このほかにも、無駄な時間をどう削減するか、会議の進め方・設定の仕方、メールの運用、資料作成などを例に、具体的にご紹介いただきました。

参加者からは「『子育てを特別視しない』は目からウロコだった」「川島さんの実行に基づいた話を聞いてよかった」「まだまだ男性社会の中で、イクボスがどんどん増えれば働きやすいし、自分もそのような上司になりたい」などの声をいただきました。

ホームページでより詳しい内容を掲載中です。ぜひご覧ください。 [フレンテみえ](#) [検索](#)

女性の活躍推進三重県会議1周年記念大会

【主催：三重県】（報告：三重県 環境生活部 男女共同参画・NPO課）

女性の活躍や輝きて県内の会社を元気にしようと平成26年9月に誕生した本会議の1年の節目にあたり、企業等の取組事例の発表会や、「子育てとキャリアのバランス」をテーマにしたトークイベントを開催いたしました。



冒頭、共同代表である斎藤・伊藤両代表に揃ってご登場いただき、「女性の皆さんは辞令を受けたらどんどん挑戦してほしい。はじめは失敗して当たり前。女性の能力を活かして世の中をもっともっと元気にならう！」と力強いお言葉がありました。

鈴木知事からも、「女性の活躍に定義はなく、人それぞれの活躍の仕方があっていいし、それを受け入れる社会になるよう、自分も一緒に取り組んでいく」とエールがありました。

女性の活躍推進三重県会議の実行部隊である企画委員会のメンバーも登場。

川北委員長から、「みえの輝く女子プロジェクト」のロゴマークの発表がありました。三重の女性には、太陽のようにキラキラ輝いてほしいとの想いが込められたロゴマークです。



【女性が活躍できる職場づくりに取り組む企業発表会】

「みえの輝く女子プロジェクト」の一環として、女性の活躍を進めるうえで何らかの課題を抱える企業等に、専門アドバイザーの派遣支援を行っており、それぞれの取組を発表いただきました。

株式会社プラトンホテルからは、育児や介護の休暇制度はあるものの、これまでほぼ取得実績がなく、休暇制度の周知やジョブローテーションを導入した事例が発表されました。

NPO法人和嬉会愛からは、経営者とスタッフの間の意識の乖離が大きくなっていったため、部門ごとの業務改善に取り組むとともに、経営者の理念を「クレド」という形にし、スタッフへの浸透を図っている事例が発表されました。

万協製薬株式会社と森大建地産株式会社では、業種は違えど、「女性社員にもっと意欲を持ってもらいたい」「女性社員に活躍してもらい領域を広げたい」など共通する課題を抱えており、社内全体で、キャリアデザインやキャリアアップの研修会を実施し、女性社員の意欲向上につながっている事例が発表されました。

現在、参加いただいた4社を含め計7社に支援を行っており、全ての取組事例をまとめ事例集として発行する予定です。



【トークイベント】



第1部で講演いただいた川島高之さんと、中京テレビ放送の恩田千佐子さんをゲストに招き、「子育てとキャリアのバランス」をテーマにトークイベントを行いました。

川島さんも恩田さんも自然体で、鈴木知事の進行のもと、初対面とは思えないほどの和やかな雰囲気でのトークが始まりました。

「元祖イクボス」川島さんが、これまで「イクメン」→「イクボス」とやってきたのは、仕事以外にもやりたいことが沢山あり、少しでも早く家に帰るためにどうすべきかを考えて実行してきた結果なのだそうです。

イクボスの役割は、部下に最大限活躍してもらうこと。そのためには、最良の時間の組み合わせを考え指示を出すことが必要で、ここでも、日頃から部下のことをよく知っておくことや、部下が話しかけやすい雰囲気作りが大切とお話がありました。

また、育児をしながらの女性には、配慮しすぎず、段階的に仕事を任せ、背中を押してあげることも必要、「時短」という言葉はイメージがよくないので、「短時間でもできる!」という前向きな捉え方をしよう、など、参考になるお話をたくさん聞くことができました。

恩田さんは、アナウンサーになるという小学生の頃からの夢を見事実現され、結婚しても出産しても仕事は続けるものと、ごく自然に考えていらしたそうです。

現在は、高校生と中学生の2児の母でいらっしゃいますが、お子さんが小さいうちは、義母や学童保育所、近所の方々など、頼れるものにはどんどん頼り、助けてもらったそうです。

「仕事を続けていることで、家庭で嫌なことがあっても逃げ場所を作ることができ、家庭とは別の評価をもらうことで、一人の人間としての誇りを持つことができる」という言葉はとても印象的でした。

また、夜、高校2年生の娘さんの足をマッサージしてあげるときに、短い時間でもいろんな会話ができて、とてもよいコミュニケーションの時間になっていると、素敵なエピソードを披露してくださいました。

「仕事をしながらの忙しい毎日に、全てを完璧にこなすことはできないので、状況に応じてその都度優先順位を決めることが必要では?」とお話に、思わず納得し、嬉しくなりました。

最後に川島さんが、「女性が社会で活躍するなら、男性も是非、地域社会や家庭で活躍をしましょう!」と締めくくっていただきました。

ワーク
ショップ 1

「趣味は仕事」でいいですか？ 大人生活を楽しもう！ Life×Work×Socialでより豊かな人生を

基調講演でイクボスについてお話しいただいた川島高之さんを講師にお迎えし、個人にとってのワーク・ライフ・バランスに焦点を当てたワークショップを開催しました。

仕事以外のこと(家事、育児、介護、地域活動、趣味や勉強など)をすることにより、仕事の能力が高まる(視野が広がる、人脈が増える、コミュニケーション能力が高まるなど)ように、仕事と私生活は二者

択一ではなくシナジー(相乗効果)の関係にあり、人生は1回きりなので仕事だけではなく全部やったほうがいい、そしてワーク、ライフ、ソーシャルを全部やると3脚だから人生がブレない、とお話しいただきました。



ワーク
ショップ 2

自己イメージから考える！わたしのキャリア

ライフイベントや環境によって、男性以上に描きにくい女性のキャリア。とはいえ女性だって「ライフ」「キャリア」とも楽しみ充実させて



いきたいし、今後はよりキャリアアップを求められる時代になります。そんな女性たちへ、「自分がイメージする自分」を見つめ直し、これからのキャリアにつなげ

ていくヒント満載のワークショップを実施しました。ワークショップでは、「できること」「やりたいこと」「すべきこと」を書き出し、この3つの重なりを見つけ、自己イメージを明確化する作業を実施、その後グループで自己イメージについて話し合いました。最後に講師の山極清子さん(株式会社wiwiw社長執行役員、昭和女子大学客員教授)から「諦めずに努力する人にはチャンスがきますよ!」と、メッセージをいただきました。

ワーク
ショップ 3

小川先生&佐伯先生と 第4次男女共同参画基本計画について考えよう

[主催:男女共同参画みえネット]

国の「第4次男女共同参画基本計画」(素案)をもとに県の「第2次三重県男女共同参画基本計画」を考察するに当たり、小川眞里子さん(三重大学名誉教授、三重県男女共同参画審議会会長)と佐伯富樹さん(三重大学名誉教授、三重県男女共同参画審議会元会長)を講師に招き、お話と質疑応答、意見交換をするワークショップを開催しました。

佐伯先生から「国の第3次計画と県の第2次計画との関係から、地域性を踏まえ、国の計画が県の計画へどのように反映されたか」、小川先生から「策定中の素案と科学技術における男女共同参画に

ついて」等のお話を伺いました。

参加者から「南勢と北勢の地域性」、「女性科学者の育成」等について質問があり、アンケートでは「いい資料と先生方の分析をお聞きし、来てよかった!!市の計画をどう作るかに市民が話し合い、声を出していかなければと思った」「第4次改訂内容のポイントをとともわかりやすく説明いただき充実していた」との声をいただきました。



もっと繋がろう!働く女性のランチ交流会



ランチタイムには、「三重県で働く女性同士もっとつながろう!」をテーマに、働く女性限定のランチ交流会を開催しました。

会場には、ワークショップ講師の山極さんにもご参加いただき、一昨年にフレンテに

オープンしたカフェ「Cotti菜」のランチを食べながら、参加者同士で企業PRや名刺交換、写真撮影などが行われ、様々な業種の働く女性が自分のキャリアや想いについて和気あいあいと語り合う、大変有意義な時間となりました。

現在、働く女性のネットワークメンバーが30名を超えました。今後もフレンテみえでは、講座やイベントを通し、女性が自分らしく働き続けるために「働く女性のネットワークづくり」を進めていきます。

パネル展示

三重県内の各市町や企業、団体などの男女共同参画活動への取組や活動を紹介するパネル、みえの育児男子フォトコンテストの作品、ママたちの「声」を集めた日本財団のポストツリーを展示しました。

ホームページでより詳しい内容を掲載中です。ぜひご覧ください。 [フレンテみえ](#) [検索](#)



多気町丹生(旧勢和村丹生)の山里にある「農業法人 せいわの里 まめや」は、地域をなんとかしようと住民が集まり出資して平成15年に設立した会社です。これまでに全国農業コンクール全国大会名誉賞(農林水産大臣賞、毎日新聞社賞)などを受賞し、今ではお客様だけでなく、全国から行政や地域団体など多くの方が視察でも訪れるようになりました。今回は代表取締役の北川静子さんにお話をうかがいました。

農業法人 せいわの里 まめや 代表取締役 北川静子さん



— 役場で働く傍らボランティアに取り組み、そこから「まめや」設立につながったとお聞きしていますが、その経緯を教えてください。

あるときJAに米の成分を測る食味計が入ったと聞いて、おもしろ半分は普段食べている米を測ってみたら、魚沼産のコシヒカリと同等の数値がでたんです。もしかしたら自分たちが普通と思って気づかない資源が地域にはたくさんあるんじゃないかと思いはじめました。

そしておいしい米には、おいしい味噌汁とおいしい漬物が欲しい。それで味噌と漬物をつくるボランティアグループをつくって活動をはじめました。おいしいと評判もよかったのですが、10年経ったときに、メンバーが60代後半から70代になってきていました。そして新しい人は入ってきません。これでは次の10年で自然消滅してしまう。そんな話をいろんな場所ですっていると、ほかの場所でも同じような状況、高齢化と後継者不足を抱えていることがわかりました。

また一方では別の問題もありました。役場で「勢和村にはおいしい米や味噌や漬物がありますよ」と発信していたんですが、そうすると「それはどこで食べられるの?」「どこで買えるの?」という問い合わせをいただきます。そのときに「すみません、食べてもらうところはないんです」と言わないといけなかったんです。

このような問題にぶつかっているうちに、「つくるところと食べる場所と売るところを作ったらいいんや」とぼんやり考えるようになってきて、そのことをまわりの女性たちに話すと、「やりたいな、やりたいな」と賛同する人が出てきました。でもそれは「やらないといけないうけど、すごく大変なこと」で、実際に取り組むなら本気のメンバーを集めないといけないう。それで出資してでも地域の大事なものを残していこうと思うメンバーを集めようとなったんです。

農業法人をつくと決めたものの、どうしたらいいかはわかりません。手探りで動きはじめました。法人設立手続きも自分たちでしましたし、35人の出資者から出資金1000万円も集めました。

事業計画で活動拠点を作ることになりましたが、出資金1000万円ではとても建てられません。もちろん借入はしますが、多いと首を絞めることになります。そこで県の補助金をもらえないか調べていたら、私たちにぴったりの補助金がありました。ただその補助金をもらうのがすごく大変で、2年を費やしました。私たちは百姓の集まりで、経営の素人です。その人たちが事業計画をつくっていく、補助金の書類をつくっていくのが本当に大変でした。

うまくいくわけがないと思われたり、信用されなかったりするだけでなく、悔しい思いもたくさんしました。でも私たちは諦めるわけにはいかなかったんです。だってこれでダメになったら、もう誰も動かなくなる、次につながらなくなるじゃないですか。だからどれだけダメだと言われてもしがみついたんです。

— その強い思いや覚悟が実って、全国からたくさんの方が訪れる特別な里になったんですね。

最後になにかをやりたいと思っているけど、なかなか踏み出せない人に向けてのメッセージをお願いします。

やってみてわかったのは、それぞれの地域には資源、宝物がすでに足元にいっぱい埋まっている。人もいっぱいいるということ。ただそれが見えていないだけです。自分が動いたらそれが見えるようになります。一步目動いたら二歩目が見える。二歩目動いたら三歩目が見える。動いたぶんだけ問題も見える。問題が見えたら解決したらいいんです。すぐに成果というより、動いて問題が出たら解決。また動いて、また解決。ひとつずつひとつずつやっていってください。

掲載しきれなかったインタビューはホームページにて公開中です。

2時間におよぶインタビューの中で、どういった困難にぶつかり、またどうやって乗り越えてきたか、来てもらうお客様にどうやって喜んでもらうのか、そして地域に雇用や利益を還元できる仕組みづくりなどを具体的に詳しくお話しいただきました。地域づくりや男女共同参画の推進など、私たちが含め、思いはあるのになかなか実現できていない団体や人々はたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。そういった方たちにも北川さんたちの取組をぜひ知っていただきたいと思えます。ぜひご覧ください。

フレンティみえ

検索

平成27年度女性に対する暴力防止セミナー

「思春期の『性』と『性暴力』 ～子どもが自分を守るために、大人が子どもを守るためにできること～」

日時 平成27年11月21日(土) 講師 具 ゆりさん(ウィメンズカウンセリング名古屋YWCAフェミニストカウンセラー)
10:00～12:00 三重県警察本部 警務部 広聴広報課 被害者支援室課長補佐 警部 福田 利章さん

11月12日～25日の「女性に対する暴力をなくす運動」期間に合わせて、セミナーを開催しました。

講師の具さんからは、「社会には性暴力があふれており、多くの子どもが被害を受けている。被害から子どもを守るために必要なのは、子ども自身が自分を大切にしていという感覚を育て、自分の感覚を信じてNOと言えるようになること。また、子どもから相談を受けた

時、事実と真剣に向き合えるかどうか。そして「あなたは悪くない」と被害にあった子どもに本気で言えるかどうか。私たち大人が問われていることだと思います。」とお話をいただきました。また、三重県警察の福田さんからは、「警察、教育、医療、家族、どの立場でも被害者にいち早く気づき、支援機関につなげ、いかに被害者の方の精神的な負担を軽減していくかが大切だ」とのお話をいただきました。

女性限定「自分の力に気づく」ワークショップ

みんな知りたい!“性”のこと ～性の健康と自分を守る力～

日時 平成27年11月23日(月祝) 13:00～16:00 講師 竹内 未希代さん(女性と子どものためのハレバレプログラム「きりりネットワーク」代表)

女性にとって、興味を持つことさえタブー視されている性のこと。しかし、自分の性に向き合うことはとても大切です。講座では、性に関する正しい知識を得、子どもたちにどう伝えていくのか講義やワークを通して考えました。

講師の竹内さんからは、「子どもたちが『性の健康と自分を守る力』を身に付けることが大切。性の健康とは、病気ではなく『いい感じで性を生きている』ということ。そして暴力など自分を侵害

するものから守る、それが自分を守る力です。文化や時代が違えば、性に関する認識も異なります。まずは私たちが、性に対する偏った枠組みを取っ払うこと。また、科学的な言葉で子どもたちに説明をすること。そのためには、大人自身が自分の性に向き合うことが必要です。」とお話がありました。また、自分を守るための知恵と技「WEN-DO」の実践を行ったことで、自分の力に気づく機会にもなりました。

女性のための 離婚講座

「子づれ離婚を考えた時 ～養育費、面会交流と子どもの気持ち～」

日時 平成27年12月9日(水) 10:00～12:00
講師 大森 順子さん(女性のための離婚相談 まえむきIPPO、公益社団法人子ども情報研究センター)

フレンテ相談室への離婚の相談が多いことから開催しているこの講座。今年度は子どもを連れて離婚を考えている女性を対象に、シングルマザーから多くの相談を受けている、大森順子さんからお話をうかがいました。

講師からは「子どもはしっかりとあなたを見ています。あなたの生き方を、あなたの人生を見ています。お母さんが楽しく、前向きに生活していたら、子どももきっと幸せになります。あなたの人生はあなたのもの、同じように子どもの人生も子ども自身のもの

です」と、子どもを持つ親すべてに共通する視点のお話がありました。

途中涙ぐむ参加者も見られ、「講座を聞いて気持ちがとても楽になった。私だけではないと思った」「子どもを中心に考えて、自分の気持ちが第二だったので、自分の気持ちをもう少し大事にした」「子どものために我慢する」ということが、子どもを一番傷つけるという言葉にハッとした」という感想が寄せられました。



男性講座

「定年を迎えた男性へ ～家庭円満コミュニケーション講座～」

日時 平成27年12月20日(日) 13:30～15:30 講師 吉岡 俊介さん(シニア産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント)

定年世代の男性を対象に、家庭や地域での暮らしで役立つコミュニケーションを身に付けるための講座を開催しました。

男性は「何があったのか」、「どういう結果になったのか」という事実中心のコミュニケーション(レポート・トーク)が多く、相手の感情に寄り添った共感中心のコミュニケーション(ラポール・トーク)が苦手な方が多いそうです。どちらかが正しいということではなく、仕事では事実中心、家庭では共感中心、というように2つを

使い分けることが他者との良好な関係を築くコツです。

講座が始まるまでは、男性たちの緊張した姿が目立ちましたが、実践を通してコツを知り、終了後には参加者同士打ち解け、和気あいあいと談笑する姿が見られました。



連載
最終回

「あたたかさ」に感謝して

メキシコを旅しながら料理を勉強している私。そのきっかけは、青年海外協力隊員としての活動中、私のことをとっても大切にしてくれたメキシコの人々に恩返しをしたかったから。

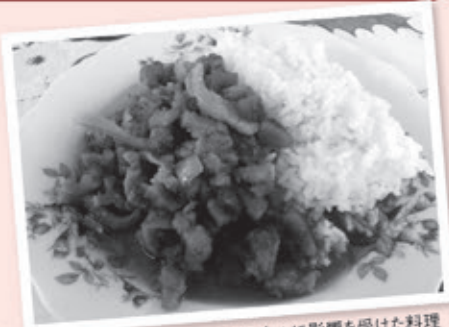
ずっとお世話になった日系人のセニョーラもその一人。学歴は小学校卒ながら、着々と事務の仕事の経験を積み、ふたりの息子を女手一つで育てあげ、60歳を超えても働き続けた彼女の生き様から、いつも働くことの大切さを学び、元気をもらいました。子どもが自立した後も、仕事をしながらおじいさまの介護をやりきった彼女。近年は、介護も終わり、自立した子どもたちのためにも仕事をがんばり、ひとり暮らしでありながら多くの同僚たちに愛され、今までよりも少しゆっくりした生活を送っていたようです。

しかし、昨年、急に帰らぬ人となりました。

経済的に豊かではない人々もたくさんいるメキシコ。それでも、言葉や文化や習慣といった多くの違いを乗り越え、「あたたかさ」をもって受け入れてくれた人々。そんな時、いつも考えたことがあります。日本に住む私にこんな「あたたかさ」があるだろうか。どこかの馬の骨ともわからぬ私を受け入れてくれたような、心の広さがあるだろうか。

さて、何千年も食べられてきたトウモロコシ、インゲンマメ、唐辛子が、スペインを初めとする文化と融合して現在に至る、無形文化遺産のメキシコ料理。愛情たっぷりの優しい家庭料理が人々の「あたたかさ」を作っていると思えてなりません。

「メキシコの「あたたかさ」を伝えること」が私なりの恩返し。



チアパス州の沿岸部には日系の人々に影響を受けた料理があります。これはニガウリ(ゴーヤ)と豚肉の炒め物。

(プロフィール)

のう だい すけ
農 大輔

1979年生まれ36歳。幼稚園から中学校まで11年間いじめを受けた経験をもつ。大学の研究室で実験職員として勤務した後、2008年6月より青年海外協力隊員としてメキシコ・チアパス州に派遣される。女性グループの自主的な活動の促進のため、大豆ミートの普及活動やお菓子作り教室などを行う。また、2009年の新型インフルエンザを機に、手洗いとうがいの普及活動なども行う。その間、メキシコのお母ちゃんたちにとってもお世話になり、「恩返し」を考えるようになる。帰国後は会社員になるも退職。「メキシコのお母ちゃんたちの味を伝える」ことを「恩返し」と決める。主夫に転身しつつ、メキシコ料理修行を前に調理のアルバイトを初め、高等学校でも勤務。現在、母ちゃんたちの味を学ぶために、メキシコへ長期滞在中。その様子はブログ@SUEÑO (http://armadillojapones.blog136.fc2.com/)でご覧いただけます。

Event Report

「女性のためのエグゼクティブリーダートレーニング ～多様なライフを抱える部下のマネジメント術～」

日時 平成27年12月5日(土)・6日(日) 10:00～16:00 講師 山極 清子さん(株式会社wiwiw社長執行役員、昭和女子大学客員教授)

これからは、社会や企業でより女性の力が必要とされる時代であると同時に管理職としての活躍も期待されています。この研修では、管理職またはそれを目指す女性たちが集まり、今求められるマネジメントに必要な知識や実践法を、2日間に渡って学びました。

1日目には「自分が「なりたい」「なりたくない」上司とは?」といったテーマで、ワールドカフェを実施。それぞれのグループで出た意見を別のグループに持ちよって共有をし、テーマを深めていきました。2日目では、管理職には必要なスキル、「人材育成」や「目標設定と

評価」などについて、ケーススタディを交えお互いにスキルを深めていきました。2日間どのテーマにおいても、参加者それぞれの経験談などが多く語られ、グループでの意見交換、情報共有が止まることはなく、講師の山極さんからは「三重の女性たちはスキルが高い」との言葉をいただきました。また研修をとおして、多様な能力や価値観を融合させ企業の「強み」にしていく「ダイバーシティ・マネジメント」の必要性を強くおっしゃり、「今後のみなさんに期待します」とのエールで締めくくられました。



「パープル・ライトアップ2015」

11月12日～25日の内閣府が呼びかける「女性に対する暴力をなくす運動」期間に合わせ、シンボルのパープルリボンにちなんだ「パープル・ライトアップ」が全国各地で実施されています。今年、県総合文化センター祝祭広場で、県内初となるライトアップを11月20日～23日に実施しました。期間中、会場では「ミニイベン

ト」も実施。来場者一人ひとりが小さなパープルリボンをパネルに貼り、みんなで大きなリボンを作りました。4日間で延べ約300人にご参加いただき、最終日には高さ150センチほどの大きなパープルリボンが二つ完成しました。



その他
情報コーナー
ミニセミナーを
開催しました!

- ◆平成27年11月28日(土) 独身のための座談会的カフェ
 - ◆平成28年 1月23日(土) 男女の生き方は世界共通? 国際理解のためのテーブルトーク
 - ◆平成28年 2月13日(土) 好評につきアンコール開催 第2回 独身のための座談会的カフェ
- 《イベントレポートはホームページに掲載中です!》

性暴力被害による心・体の反応と二次被害

性暴力被害は、心や体・行動等に様々な反応や変化を引き起こします。被害の直後に表れることもあれば、何か月も、時には1年以上も経過してから突如表れることもあります。反応が持続する期間も人によって様々です。また、ほかの犯罪に比べ、特に性暴力の被害者には、PTSD(心的外傷後ストレス障害)が発症しやすいといわれています。

【こころの反応】

- ・「本当のことは思えない」「信じられない」という否認の気持ち
- ・どうしていいかわからない混乱した気持ち
- ・事件のことをよく覚えていない、事件の最中の記憶がない
- ・何をしても楽しくない、感情がわからない、物事への興味や関心がなくなる など

【からだの反応】

- ・体の痛みや不調(頭痛、下腹部の痛み、不正出血)、心臓がどきどきする、過呼吸 など

【自分や他者に対する考え方の変化】

- ・「どうして逃られなかったんだろう」という後悔、自責感にさいなまれる
- ・自分は弱い、何をやってもだめだという感情を持つ
- ・自分は汚れてしまった、永久に回復しえないという感情を持つ
- ・他人を信じられない、この世の中では安心して暮らせない、という感情を持つ など



「恥ずかしくてだれにも言えなかった」「そのことについて思い出したくなかった」
 「自分さえがまんすればなんとかこのままやっていけると思った」「自分にも悪いところがあると思った」
 これらは、性暴力の被害者が相談しなかった理由です。

内閣府の調査によると、「異性から無理やりに性交された被害の相談の有無」で、約7割の人が「相談しなかった」と答えています。とりわけ、家庭内での性暴力被害は見えづらく表面化されにくい実態があります。

性暴力被害は、心身に大きなダメージを与えるものであり、被害後間もない時期から適切なサポートを受けることが、被害者の心身の回復やその後の生活にとって、とても重要です。

二次被害を防ぐこと

残念ながら、社会に根強い強かん神話により、何も悪くない被害者にも非があったような偏見が多くあります。それにより、勇気を出して相談をしたにも関わらず、さらに傷付いてしまったというケースが少なくありません。二次被害を受けることにより、さらに心の傷が深くなり、他人や社会を信じられない気持ちが強まります。性暴力被害に遭った被害者をこれ以上傷付けないこと。それには関わる人、一人ひとりが正しい知識を得、自身の意識を見つめ直すことが重要です。

参考:内閣府 平成27年版犯罪被害者白書(概要) 内閣府 「犯罪被害者等基本計画検討会」資料

フレンテみえ って、なに?

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください!

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ

検索



三重県男女共同参画センターまでの1案内



休館日 毎週月曜日 年末年始(12月29日から1月3日まで)
 交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
 ■徒歩/津駅西口から約10分
 ■自転車/伊勢自動車道若菜インターから約15分、津インターから約10分
 ※駐車場は1400台(無料)、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

[年4回発行/次回5月発行予定]

発行 三重県総合文化センター
 三重県男女共同参画センター フレンテみえ
 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
 TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135
 URL http://www.center-mie.or.jp/frente/
 E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど...
 男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 専用ダイヤル 059-233-1133

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00~12:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00~15:30	休館日	●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00~19:00	※	—	—	●	—	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

フレンテみえ相談室のご案内
 (切り取ってご利用ください)

